

1. 雨水を使って野菜や植木に水やりを行ない、水道水の節約（節水）ができた。



各家庭で使用していた「貯槽タンク」を利用して、雨水をこのタンクに溜めて、今まで水道水を使って、畑の野菜や植木などに水まきをしていたが、これに変わり『貯槽タンク』に溜まっている水を利用して、水の節約を行なっている。かなりの効果はある。水道水の料金が月10,000円位かかったのが、半分の5,000円位まで下げることが出来ました。

沖縄は大きな川が無く以前は結構高頻度で断水がありました。断水は最初、夜だけ8時間断水し、昼間は水が出る8時間断水から始まり もっと厳しくなると1日おきに水が出る24時間断水になりました。貯水タンクがあると、断水になってもすぐには水が無くならず 節約すると結構水が使えるのです。タンクが普及してからは8時間夜間断水では、実質効果は薄くなってしまったのです。なお最後の断水は平成5年です。平成12年に大きな羽地ダムが出来 その後大保ダム、億首ダムが完成し以降は断水は発生していません。

そのために、屋上の貯蓄タンクは必要がなくなり、リニューアルする折には、貯蓄タンクを取り外す家庭が多くなりました。その有効活用として考えられたのが、雨水貯水でした。貯水タンクには、5～6トンの雨水を溜めることができました。